



今年9月14日付けで地域おこし協力隊林業支援員の委嘱を受けた黛幸治さん。出身は群馬県高崎市。大学進学で北海道に来て以来、北海道での生活は16年目になったそう。

以前は函館市内の学校で職員として働いていたという黛さん。アウトドアが好きで、学生時代から、子どもたちに自然を通じた体験学習を行う団体にボランティアとして参加していたこともあり、以前から興味があった環境教育に関わる仕事をしたいと思っていたところ、インターネットの就職支援サイトで厚真町で林業支援員を募集しているのを知った。「募集の活動内容にあった、環境保全活動を実施する団体で研修を受けられるということに魅力を感じて応募しました」と、応募のきっかけを話す。

現在は、林業支援員としての活動に必要な基礎的な研修を受けています。

「引越したばかりなのでいろいろ忙しいですが、落ち着いたら趣味の登山にもたくさん行きたいですね。厚真に来てからも、休日を利用してニセコに登山に行ってきたんです」という。

また、「実はこう見えてマラソンもするんです。フルマラソンも何度が完走しています」とのことだが、10月に町内で行われたマラソン大会に参加したところ、最下位だったそう。「ダイエツトして雪辱を果たします！」と、早くも来年のリベンジに意欲を見せる黛さん。「3年という協力隊の任期の中で、厚真町の森林資源を活用してどのようなことができるのか、そして、それをどのように発信していくのかをテーマに、いろいろ模索していきたいです。」

森林資源を活用した取り組みを模索



本郷

黛 まゆずみ

幸治さん(34歳) こうじ

ぼうさい



⑨年末年始の準備は防災のチャンス

いよいよ12月。年末の大掃除や新年を迎える準備をする時期になりました。大掃除とあわせて、家中の安全点検をしておきましょう。家具の配置の見直しや備蓄の確認に加え、防災無線の電源が入っているか、音が聞こえているかもチェックしておく、より安心して新年を迎えられると思います。このように、年中行事と防災のちょっとした取り組みを組み合わせると、無理なく続けることができると思います。

11月19日には、昨年に続いて厚真高校1年生向けに防災授業をする機会をいただきました。地震や津波の避難について、こちらから「正解」のない問いを投げかけ、生徒それぞれの考えを表してもらう授業です。始めは少し戸惑いながらも、ユニークな意見が飛び出し、高校生のフレッシュな感性に感銘を受けました。生徒の皆さん、ご準備いただいた先生方、本当にありがとうございました。

厚真町の実情を踏まえたオリジナルの防災教材作りは、だいぶ形が見えてきたところです。12月には教材の試行版を使って、町内の「北海道防災マスター」を対象とした研修を行います。町内の皆さまに親しみやすく、楽しく学べる教材にしたいと考えておりますので、関心を寄せていただけると嬉しいです。引き続き、進捗状況をこのコラムの中でお伝えしていきたいと考えています。

■プロフィール

定池祐季（さだいけ ゆき）

東京大学大学院情報学環総合防災情報研究センター（CIDIR）特任助教。

剣淵町出身。北海道大学大学院文学研究科博士後期課程修了、博士（文学）。北海道大学助教を経て現職。専門は、災害社会学・防災教育。北海道南西沖地震を奥尻島で経験、災害復興と地域防災に関する研究に取り組むほか、各地で防災教育活動を展開している。2014年より厚真町防災アドバイザー。



■ 今月の内容 ■

- ☒ I LOVE あつま・人口・世帯数 … 2～3
- ☒ 町文化祭 … 4～5
- ☒ 平成27年度厚真町表彰式 … 6
- ☒ むし歯のない子19人を表彰 … 7
- ☒ 国民年金 … 8～9
- ☒ 安平・厚真行政事務組合 … 10～11
- ☒ マイナンバーに関する疑問・質問
一問一答 … 12～13
- ☒ まちの話題 … 14～17
- ☒ 節電にご協力をお願いします … 18
- ☒ 公共施設等年末年始ガイド … 19
- ☒ みんなの広場 … 20～21
- ☒ まなびや … 22～23
- ☒ 健康情報・ほけんの掲示板 … 24～25
- ☒ 情報ひろば … 26～27

■ 今月の表紙

11月3日と4日の2日間、総合福祉センターや総合ケアセンターゆくり、厚南会館などを会場に「厚真町文化祭」が開催されました。

総合福祉センターでは茶道会によるお点前と呈茶が行われ、会員が優美な所作でお点前を披露していました。



2015(平成27)年12月

NO. 760

11月30日現在の人口
4,702人(前月比－6)
男 2,304人／女 2,398人
世帯数 2,128(前月比＋3)